

平成24年度大阪府立旭高等学校第1回学校協議会

- 1 日時 平成24年9月14日(金)
午後2時20分から午後5時00分
- 2 場所 大阪府立旭高等学校校長室
- 3 協議会委員(敬称略)

関西大学文学部ドイツ学専修 教授	佐藤 裕子
大阪市立旭陽中学校 校長	中西 洋
平成24年度旭友会 副会長	島田 修子
平成24年度大阪府立旭高等学校PTA会長	野田 剛

内 容 :

授業見学 月曜日6限の授業

漢文(2-5) 長文B(3年) 世界史A(2-B) 数学B(3年)
情報(1-2) Writing(3-2) Oral Communication(1-6)

協議

1. 学校長挨拶
2. 出席者紹介
3. 会長選出 佐藤氏に会長依頼
4. 旭高校の現状と課題 <<●協議会委員の意見等>>
 - 1) 授業に関して(見学を終えて)
 - 10年前の旭高校と比較すると生徒たちの様子が良い意味で一変した。
授業は非常に落ち着いており、積極的に参加している生徒が多い。
朝学校周辺を走っているサッカー部員が明るく生き生きしている。
 - 我が子は中学校では英語に少し自信があったようだが、高校の英語は難しい
と言っている。学校生活については生徒の雰囲気良く「自分らしさ」を保つ
ことができることに満足している。旭に入学して良かったとも言っている。
 - 先生と生徒が楽しそうに学校生活を送っているという印象を受けた。
自分の子どもも楽しんで旭に通っていた。
 - 印象深く授業を拝見し高校の楽しさがよく伝わってきた。生徒の将来に向け
て力となる楽しさであると思われる。先生と生徒の対話を通して授業が進め
られ、生徒に発言の自由を与える教員の懐の深さ、生徒側のハメを外すこと
のない態度がわかった。
(今高校の授業に求められるものは)
 - 中学校の授業では規律が優先され、生活指導や部活動がそれを支えている。
旭高校では生徒自身がコントロールして授業を受けている。その基盤になる
ものが生活指導であろう。
 - 自分自身を確立し、社会性を身につけることができるのが高校であると考え

る。周囲と協調したうえで自分自身を主張できる生徒になってほしい。個人的には読書の役割は非常に大きいと考えるので、本をしっかり読ませたい。

- 早く進路を決めたいために指定校推薦に走る生徒がいると聞く。やはり将来を見据え進路実現にしっかり取り組むためにも一般入試で頑張る受験生であってほしい。
- 若者の教育が問われている時代である。自分の考えがある、自分の立ち位置をしっかり持っている、自分が幸せになるためには社会が幸せでなければならないと考えられる、そういう資質のある生徒を育成してほしい。また、異文化に触れ多くの体験を生徒にさせてほしい。自分と違うバックグラウンドを持つ人の価値観を理解しようとするのが大切である。理解に近づこうとするプロセスが重要である。自分と他の人を含め客観視できる想像力のある生徒の育成をお願いしたい。

2) 旭高校の現状と課題

平成24年度学校経営計画→各分掌からの報告 <<●協議会委員の意見等>>

教務部：平成25年度入学生からの教育課程の実施/国際教養科の専門科目のあり方/教員構成の変化と時間割編成上の問題/入試制度改正に伴う年度末行事計画の変更/教科書採択と副読本選定/授業改善に向けて/前期選抜での小論文導入準備

- 授業見学を通して地域の小中高校の教員間の交流が図ればよい。

進路部：学年進行でスケジュールを組み指導中/4年制大学希望者の急増/推薦入学等で早々に合格が決まる生徒の高校生活や学習へのモチベーションの低下等

- 【**関西大学の場合**】

関西大学入学前事前教育プログラムを実施し課題を提出させ準備教育を行っている。取組んだ学生の声：「やってよかった。」「入学前に仲間作りができた。」

生活指導：時間を守り授業を大切にすることから始めて現在の生活指導に至っている。この2年間の様子からは「学校への愛着が少ない」「無気力」「自分中心」という生徒が増えたように思う。/制服をきっちり着る工夫としてスカートの仕様変更準備中/運動部員や生徒会の生徒による校門での挨拶を実施中

保健部：健康面に関しては概ね平均的である。歯の治療がなかなか進まない。津波を想定した避難訓練を1学期に実施済/AEDの使用訓練や熱中症対策への取り組み/危機管理に関して地域との連携を今後考えなければならない。

- 中学校は地域の避難場所に指定され鍵を地域保管している。

図書教養部：生徒の図書館利用の増加/旭ニューズレター/本年度の姉妹校交流/国際教養科1年生夏季研修(ガー・レイノルズ氏のプレゼン講義)/課題研究におけるデパート(英語使用)/卒業生の国際ボランティア活動への参加